

過労死ゼロ読書感想文①

「過労死ゼロの社会を」(連合出版、高橋幸美／川人博著、以下同書)を読んで

電通の新人社員だった高橋まつりさん(以下、まつりさん)が、過労死自殺したのは、2015年のクリスマスでした。当時の報道を覚えていて、どのくらい凄惨なことがまつりさんの身に起こっていたのか理解しているつもりでしたが、同書を読んで、その考えは変わりました。もっと厳しいものでありません。母の高橋幸美さん(以下、幸美さん)が、どんなにまつりさんを愛していたかを知ると、余計に悲しい思いになります。

そして、この事件を担当した川人博弁護士(以下、川人先生)が、二度とこのような事件が起こらないようにどのような対応をしたのかを知ることによって前向きになれたことを、以下のような内容と感想をまとめてみました。

まず、幸美さんの悲しみを分かち合いたいと思います。

「母子家庭で普通より困難の多い環境から、自分の力で東大に合格して、まつりの人生は『前途洋洋』、その物語はハッピーエンドになると思っています。(中略)

私の知っているまつり。
まつりは幸せになりたかった。そのため
に努力してきたのです」。(同書、第二章
まつりと私の二十四年 p82より)
幸美さんが、まつりさんの人生を忸怩と
した気持ちで振り返っている様子がよくわか
ります。

母子家庭で地方という受験格差を乗り越え、東大合格。文部科学省の推薦枠に合格し、中国の精華大に留学、そして、大手広告代理店・電通入社。素晴らしい人生だったはずが、自殺という結果が待っていました。幸美さんの手記を読むと胸が痛みます。

次に、まつりさんを死に追い込んだ電通に対して、川人先生がどのような提言をしたのかを紹介したいと思います。

それは、「第三章 電通に対する十の改革提言」にまとめられています。

その一 適切な業務量と適切な人材配置

その二 新入社員を疲弊させる懇親会・反省会を廃止するか、または抜本的に改善をすること

その三 パワハラ・セクハラを生む土壌をなくすこと

その四 電通独特の社風の問題点を洗い出し、改善をすること

その五 健康管理の抜本的改善を

その六 時間短縮により、労働能率の向上をはかること

その七 広告業界などサービス産業の過重労働改善のために

その八 CSRは足元の遵法精神から

その九 CSR(2)健康経営の実現を

その十 国民の健康増進の資する広告業務・コンテンツ業務を

どの項目を見ても、企業として「当たり前」に守られていることであるべき内容です。にもかかわらず、大企業である電通ができていなかったのです。この細かい内容の提言が電通を変えることを願ってやみません。

さらに、川人先生は、他企業も参考にしてほしいと提言しています。

まつりさんの死を無駄にせず、川人先生の提言通りの会社風土が日本全体にて熟成されることを祈りたいです。